



教員採用選考試験に臨む皆さんへ ～あこがれの“教師”として生きるために～

別府大学教職課程

客員教授 佐藤 敬子

I 教師になるという覚悟

○教員免許という「教育の専門家」の資格を持つこと

「先生！」と呼ばれる職業はたくさんあります。お医者さん、大学の先生、議員さんも「〇〇先生」と呼ばれることがあります。

しかし、幼児教育も含め、小・中・高等学校の先生は教員免許を取得した「教育の専門家」です。教職課程で学び、身に付けた“児童生徒をわかろうとする”“相手に伝わる伝え方”などの能力は教科の専門知識以上に社会人としても必要なスキルです。

児童生徒理解で身に付けた力はお客様の気持ちに寄り添う仕事ができるでしょうし、対人援助職にもその力が発揮できます。授業力で身に付けたプレゼン能力はどのような場面でも聞く人に説得力のある提案ができるでしょう。教員以外の職業でも一番大切な能力を皆さんは教職課程で身につけることができるのです。

○ICTと教師力

2022年1月文部科学省の全国調査で「公立学校で2000人以上の教員不足」という実態が明らかになりました。団塊の世代と言われる年齢層の先生方が多く退職され教員の数が減っていることに加え、仕事の忙しさなどから病休者や早期退職も出て採用試験の倍率は過去最低となりました。

しかし、いくら人が足りないからと言って誰でも採用されるわけではありません。教育を通して、大切な「命」を育て社会に送り出すという大変な仕事を任せられる人材でなければならないからです。では、どのような人材が「教員」として求められるのでしょうか。

コロナ禍の影響はもちろんのこと、ここ数年で教育現場を取り巻く環境も大きく変化しました。10年20年先には労働人口の約半分は技術的に人工知能で代替可能になり、今ある職業の半数は大きく形を変えるか消滅してしまうといえます。そのリストには「中学・高校の先生」も入っています。

ただし、そこには「知識や情報を伝達するだけの先生」と条件が書かれていました。

確かに単に教科書を使って知識や情報を伝えるだけなら、AIやロボットの方がよほど正確に早く仕事をこなしてくれるでしょう。休日や放課後も「時間外なので対応しません」とシャットダウンし8時間の勤務時間もきっちり守ることでしょう。

この1年、私が担当した文部科学省はじめ全国の教育委員会での多くの教員研修が集合研修からオンライン研修に変更されました。

ZoomやWebex等を使用して、1対200～300人の先生方を対象に多いときは6時間もの講義をします。ただ、画面に向かって話すだけでなら人間でなくてもできます。

むしろ、AIロボットの方が言い間違いや疲れることもなく流暢に話をするでしょう。

ここが、教師の腕の見せどころなのです。

校長室や別室で受講している何百人も先生方が「今日は研修会に行ってきた。とても充実していた、自分が参加した実感があって楽しかった」と感想を述べてくれるような講義をするのが教師なのです。臨場感あふれ、能動的な参加意識がもてる時間にすることが「人間の教師」に求められる能力です。

便利なアイテムを使いながらも「人間力」と「指導力」を最大限に生かすことのできる教員がこれからも求められ、選ばれるのです。

○教員の仕事・役割とは

2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」は、「現代社会で求められる力とは何か？」という問いに対し、「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」という3つの能力とそれぞれに紐づく12の能力要素で答えるものでした。人生100年時代の新しい「社会人基礎力」のポイントはまさに「学び」です。

教師の仕事は「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう活躍するか」という、視点から目の前の子どもたちを育てることです。

教員とは、単に生徒たちに勉強を教えるだけの仕事ではありません。

生徒一人ひとりと徹底的に向き合い、自立した人間を育て、個人の能力を伸ばすという役割を担っています。

「コーチング」や「トレーニング」も必要ですが、今も昔も、それ以上に「コーチング」と「カウンセリング」の能力が求められているのです。

また、実際の仕事内容は学級経営、部活動の指導や進路指導、学校の事務作業、保護者や地域住民との関係構築など、多岐に渡ります。

教育現場には、いじめや不登校、児童虐待、学級崩壊（学校が機能しない状況）、難しい保護者対応など、さまざまな課題が山積みとなっています。

それらの課題と真摯に向き合い解決する能力や姿勢こそ、教師には必要です。

毎日毎日が子どもと向き合い、人を育てるという尊くも責任重大な仕事なのです。

○それでも目指しますか？

教育職を目指している皆さんが「先生になりたい」と考えたのはいつからでしょう。

そして、そう考えるきっかけになったのは、何でしょう。

おそらく誰かとの出会いや、誰かのことばが、あなたが将来の仕事として教師を選ぶきっかけになったのではありませんか。だとすれば、あなたも子どもたちに「先生みたいな先生になりたい」と将来の夢を描けるような教師になりたいものです。

「教員の仕事は過酷だ」と言われる近年「学校の働き方改革」が推進されつつありますが、どのような職業も楽な仕事はありません。

私は大学卒業と同時に公立中学校の教員となり、また、指導主事として県の教育行政にも長年関わり、文部科学省で全国の幹部教員を育ててきました。

学校勤務の時は授業構築や成績処理、生徒指導など多くの分掌をこなし、徹夜や休日出勤など当たり前、部活動では夏休みも年末年始も練習に明け暮れました。

教育行政では議会对応、予算折衝など職場で朝を迎えることもありましたが、（今は“働き方改革”により、そのような場面はほぼなくなりました）

どちらも大変な疲労を伴う激務でしたが、疲れ方に違いがあるのです。

書類にまみれパソコンに向かって深夜まで仕事をした後は本当にぐったりと疲れるのですが、子どもたちと関わる教育現場での疲労には、不思議な心地よさも残るのです。

子どもたちの人生に寄り添う「教師」とは本当にやり甲斐のあるすばらしい職業です。

それは大学の教員として学生と過ごした年月も全く同じです。

先日も全国の小・中・高等学校・特別支援学校の先生方の研修をオンラインで実施しました。「今日は楽しかったです。早速、学校で応用してみます」とおっしゃる先生方の笑顔には子どもたちへの愛情と教育への情熱が画面を通してたくさん伝わってきました。

そんな教師になりたいと考えている皆さんの夢は必ず現実にできます。

今、ここで「本気」が出せるか否かでその夢は現実となるのです。

努力は良くも悪くも結果にでます。

教壇に立ち多くの子どもたちの自己実現を支援するステキな「先生」になりましょう。

Ⅱ 教員採用試験の傾向と対策

1. 教員採用試験受験の準備

○「人物評価」が最も重視される

公立学校の教員採用試験は全国47都道府県と20の政令指定都市の教育委員会が毎年実施するもので、ほとんどの都道府県、政令指定都市では一次試験で一般教養や教育職に関わる教職教養、教科の専門性を見られ、二次試験以降で人間性や教員としての資質、適性を見られます。前年度までの傾向を分析しても、最新の情報でも選抜で重視されるのは「人物評価」です。「模擬授業」では学習の中身よりも教壇に立った時の佇まい、つまり「先生としてふさわしいか」を評価され、面接ではコミュニケーション能力が最も重要視されます。筆記試験は、一人でも猛勉強してパスすることもあります、「コミュニケーション能力」を一人で伸ばすことはできません。早めの対策を取りましょう。

○タイムマネジメントの大切さ

試験の準備には、「一人でできること」と「複数でないとできないこと」「指導が必要なこと」があります。

筆記試験などの勉強は一人で取り組むものですから、自宅や図書館などでじっくり取り組める時間の確保が必要ですが、集団面接や集団討議は複数で練習しなくてはなりません。いくら時間があっても一人ではできないのです。また、模擬授業の練習は最も専門的な指導を必要とするものです。学生だけで自己流の回数を重ねても正しい指導が入らなければ時間の無駄になるだけです。上手に時間のやりくりをして、無駄な時間にならぬよう、タイムマネジメントを上手にすることが合格への近道です。

教職課程の履修を始めてから教員採用試験当日までの時間はそう多くはありません。

一方で通常の授業やサークル活動、アルバイトやボランティア活動など時間を費やすこともたくさんある中で、教員採用試験に挑戦しようと思うのであれば、よほど効率のよい時間の使い方をしなくてはなりません。

中には他の公務員（行政職や公安職など）や民間企業の受験を同時に考えている学生もいるかもしれませんが、勉強の中身も試験時期も異なります。

自分の適性やこれまで積み重ねた勉強の量などを考慮して、ほんとうに自分が何を望み、何を優先すべきかを吟味し、早い段階で自分の希望進路を大筋で決定する必要があります。

迷ったり、悩んでいることがあればキャリアカウンセラーや先生方に相談してみましよう。

2. 現役で合格する計画を立てる

(1) 専用ノートを作る

現役合格した多くの学生は、「就活ノート（受験準備ノート）」を作っていました。

試験日までの学習計画や、必要なこと、覚えておきたいこと、指導していただいたことなどをメモします。計画は常にチェックしてうまくいかないときは立て直しをしましょう。

このノートは当日までの大切なバイブルとなります。

(2) 勉強時間の確保

できれば3年生からはアルバイトなども整理して、勉強に集中できる場所と時間を確保しましょう。難関である教員採用試験をパスするためには、他の活動をしながら片手間の勉強では通用しません。大学の講義内容と教員採用試験に合格するための勉強は別です。

最低1日6時間は一人で受験のための勉強をする時間を確保することが必要です。

授業中も採用試験に関わる内容はとくに集中して能動的に受け、日頃解いている問題などで理解しづかったところは先生に質問するなど、こまめに勉強量を増やすことはもちろんですが、対策のための長期的な勉強には習慣化が最も重要です。

大切なのは現役合格をすることです。次の年に再チャレンジもできますが、年々勉強時間の確保がしにくくなり周囲に支援してくれる先生や励ましあえる友人がいない環境になっていきます。モチベーションを保つことが何より大変になります。「ダメなら臨時講師でも…」という安易な考えで臨んでは合格できません。

「臨時講師（期間任用）」は他の先生と同じように授業も部活動も担当します。帰宅してからの勉強時間はなかなか確保できないのが現状です。さらに翌年のライバルはたつぷりと受験勉強時間がとれる後輩たちや数回チャレンジしている先輩たちが加わるのです。

3. 教員採用試験受験までの準備スケジュール

(1) 受験する自治体の教員採用試験について知る

3年生になってからは（早ければ早いほど良い）受験自治体の前年度要項を入手して、求める教師像や試験内容、日程や必要書類などの情報から全体像と留意点を確認しましょう。自治体（県）によっては試験の日程や試験項目、受験資格などが違います。

各県の県庁や教育庁で入手できますが、自治体のホームページにも掲載されています。

大学のHPや掲示物、授業中の案内など、情報をこまめにキャッチし、参加できる講座や説明会にはできるだけ参加しましょう。

(2) 教職教養は過去問題集を、専門教養は入試問題集などを手に入れる

問題集を入手して繰り返し解くことが必要です。苦手分野は早めにクリアし、試験に出る範囲に絞って勉強することがポイントです。最新のものも必要ですが、合格した先輩から譲ってもらうのも良いでしょう。できれば

書店で実際に手に取り、使いやすいものを選ぶことをお勧めします。ボロボロになるまで使うものですから自分にあったものを探しましょう。

(3)腕試しの模擬試験を受ける

大学以外でも大手予備校などが主催する講座や単発の模擬試験などもあります。

時間と費用などを考慮しながら上手に活用することをおすすめします。自分の実力や、受験自治体の難易度などを客観的に知るためにも役立ちます。

そういった講座を受講することは模擬授業や模擬集団面接など一人では対策できないことや、他の受講生と一緒に勉強することによって、ともに教員を目指す仲間同士、励まし合いモチベーションアップにもつながります。

4. 4月以降は自治体のホームページを頻繁にチェックする

(1)早めの願書入手で指導を受ける

新年度になると各都道府県、自治体のホームページに教員採用試験に係る情報が掲載されます。近年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から試験のスケジュールそのものが大きく変わった自治体が多くありました。

採用人数や試験の形式などは自治体によって異なることもありますから、早めにチェックして願書を入力し、情報収集をしましょう。出願がオンラインとなったところがほとんどですが提出する前に指導者にチェックをしてもらいます。一人では気づかないミスもあります。

(2)教育行政のテーマを覚える

各県・自治体が求める「教師像」「教師としての資質」や教育行政の方針などは各自治体のホームページや実施要項の中にも謳われていますので明確に答えられるよう学習しておきましょう。

たとえば「新学力向上のための三つの提案」(長崎)

「認め、ほめ、励まし、伸ばす」(熊本)

「授業改善の4+4のチェックポイント」(宮崎)

「鍛ほめ福岡メソッド」(福岡)「新大分スタンダード」(大分)等

暗記するくらいに内容や具体例を明確に説明できるように準備する必要があります。

5. 教育実習開始の時期

(1)多忙な時期だと覚悟する

「先生」として実際に生徒と接して、とても楽しい期間ですが、初めての経験で、全てにおいて毎日が不安と緊張の連続です。教材研究や指導案作成、審議を受け訂正を繰り返し、完成させ実際の授業研究、指導助言をいただく。また、学校行事への参加や部活動の指導補助など毎日が時間に追われます。また、家に持ち帰りの仕事なども多く、精神的にも肉体的にもエネルギーを使いますので、この期間に一次試験対策の受験勉強はできません。

しかし、実際に教育現場から学ぶことが大変重要ですし、ここでの姿は教員としての適性を評価される場でもありますから、集中して実習に参加しなくてはなりません。

そのためにも早めに受験勉強に取り組むことが大切なのです。

(2)指導教員や管理職の先生方に指導を受けるチャンス

熱心に、誠実に実習をする学生は先生方も支援したいと考えています。現場の先生方に授業以外の生徒指導面

の対応などを学ぶ機会です。積極的に指導を受けましょう。

Ⅲ 試験内容別の対策

1. 一次試験

主に筆記試験で行われ、「教職教養」「一般教養」「専門教養」「論作文」の4つの分野があります。自治体ごとに試験分野や出題傾向が異なるため、すべてを対策するのではなく、過去問題の分析など対策が必要です。必ず受験する自治体の過去問題を確認して、出題される分野とされない分野を押さえておきましょう。

(1)「教職教養」(「一般教養」を含む自治体もあります)

教職教養の主な出題分野は、「教育原理」「教育法規」「教育心理」「教育史」「教育時事」の5分野に分けられます。その中でも、「教育原理」「教育法規」「教育時事」の3分野が中心に出題されています。近年は、「教育時事」の比重がますます高まっています。

ご当地(ローカル)問題を出題する自治体が多く、受験する自治体のホームページはもちろんのこと、新聞やニュースなどは日々チェックして最新の情報を記録しておきましょう。

①過去問題を解く

教職教養は過去に他の自治体で出題されたものや類似した問題が8割以上を占めるという特徴があります。過去問題集は自治体別のもので全国のものを一通りクリアすれば得点につながります。出題頻度の高い項目は記録しておきましょう。

②新聞を読む、ニュースを見る

「昨日のニュース」は今日になれば「過去のニュース」です。今、何が起きているのか、現在の教育課題は何か、などを常に興味を持ってアンテナを張りましょう。「いじめ」「不登校」などに係る問題は必ず出題されます。日々、数字が変化しているものは参考書や過去問題では役に立ちません。また、ネットニュースなどは信ぴょう性を精査する必要があります。

(2)「一般教養」

①「教科問題」

自治体によって各分野の出題比率が異なります。範囲は広いものの中学校から高校までに学習した内容です。入試問題集や教科書などを見返しておきましょう。

②「時事問題・一般常識」

時事問題では、過去3年ほどの主要なニュースから出題があります。毎日、ニュースや新聞には目を通し、教育者の視点からも考察しておくことがポイントです。環境や情報の分野では、重点的に出題する自治体が少なく、国内外の施策、法律の改正など社会人としての基本的な知識が問われます。

③広く、浅く

「教科問題」は基礎的な分野を広く浅く学習することが一番のポイントです。範囲が広いので、苦手な教科や実技教科などを重点的に思い出しながら学習するのが効率的です。

(3)「専門教養」

①満点で当たり前

専門教養は受験する人が自分の得意とするものなので、誰もが積極的に勉強し、ほぼ満点が取れるものです。失点のないよう完璧にしておく必要があります。

②学習指導要領は完璧に

教科内容を中心に、指導要領や指導法も問われるので、新学習指導要領の改訂点についても問われます。中学・高校の各教科では、専門教科について、中学校から高校、大学までの学習事項について、より専門的なレベルの出題があります。

教科の「目標」「各学年の目標及び内容」など記述内容の詳細が問われます。

中学・高校の専門教科は、ほとんどが大学入試レベルの問題です。難易度の高い問題も含め、入試問題集を活用するのが効率的な方法です。

③指導のポイントは、文部科学省の動画が正解

学習指導要領のポイントや指導方法などをわかりやすく解説した動画が大変役に立ちます。本来は現場の先生方のために制作されたものですが、誰でも視聴できるので、絶対にお勧めです。(NITSで検索)

(4)「論作文」

①教師としての人物評価をされる

「社会の変化に対応した教育課題」「生徒指導の在り方」「教師に求められる資質」など指定テーマについて、受験者の考えや実践を記述させる形式が多くなっています。

一部の県市では資料の読解や、抽象的なテーマの出題などもあります。

字数は400字～1200字程度と自治体で幅があります。

知識だけでなく、論理や表現力、教職への熱意など、文章から読み取れる総合的な人物評価が判定されます。

特に近年は、人物重視の傾向が顕著となり、今後もこの傾向は続くものと予想されます。従って論作文が採用試験の中でも重要視されることは明らかです。

重要なことは、教育課題を評論家的に一般論で解説するのではなく、教師の立場に立って、授業など具体的な実践を中心に論述することです。採用者側は、本を読んでいる人ではなく、現場で実践する教師を求めています。

②同じテーマで繰り返し書く練習を

論文は大学のレポートではありません。「序論」「本論」「結論」などの構成で簡潔に、教職への強い決意を示すことなどが文の中にわかりやすく盛り込まれているかを評価します。

何を言っているかわからぬようでは生徒にも授業はできません。

自分の考えと文章を練り直すためにも、同じテーマで繰り返し書き、誰かに添削してもらいましょう。添削者は、校長経験者や指導主事経験者がベストです。

③表記、表現上の基本は絶対

誤字・脱字や文字の乱れは、論作文の内容を評価される前に、教師として不適格と判断されてしまいます。教職への情熱を行間のにじませられるよう、誠意をもって丁寧に書く習慣をつけましょう。

〈原稿用紙の正しい使い方ができているか〉

- ・ひとマス空けて書き出す
- ・改行などのルールを守る
- ・「」の終わりには句読点を打たない

〈文体が統一されているか〉

- ・常体「である。」「だ。」と敬体「です。」「ます。」の混用をしない
- ・敬語（丁寧語・尊敬語・謙譲語）が正しく使えるか
- ・句読点、カッコは適切な位置に書かれているか
- ・一文が長い場合、区切る場所が適切か
- ・会話は「」に入っているか
- ・仮名と漢字が適切に使われているか
- ・「こと、ため、ところ、もの、わけ、うえ」などは仮名書き。
- ・「子ども」（子供はNG）

〈文法上正しい文章になっているか〉

- ・主語と述語の呼応
- ・修飾語と被修飾語がはなれすぎているか
- ・助詞「て、に、を、は」の正しい使い方
- ・動詞の態（受動態能動態）
- ・語句を正しい意味で用いているか

〈簡潔でわかりやすい文になっているか〉

- ・一文が長すぎないか
- ・同じ語句または同意の語句の繰り返しはないか
- ・回りくどい表現はないか
- ・修飾語が長すぎないか

〈教育用語を正確に用いているか〉

- ・「児童」「生徒」「学生」「保護者」等（父兄などはNG）

〈俗語・流行語を用いていないか〉

- ・カタカナ言葉はなるべく使わない
- ・略して記さない

〈字数は適当であるか〉

- ・指定された字数の9割以上は埋める

④多くの文を読み、自分自身で実際に書くことが最も効果的

時間を設定して実際に原稿用紙に論作文を書くことが大切です。

目頃パソコンを使用していることが多いと簡単な漢字でも咄嗟に思い出さないことがあります。鉛筆で書く練習を心がけましょう

また、新聞の「読者投稿」欄に何度も投稿すると掲載時に添削もしてもらえるので、文章の正しい書き方が学べ、効果的です。

2. 二次試験

二次試験は面接試験（個人面接、集団面接、集団討論など）模擬授業・場面指導などがあります。※近年は集団討論を実施しなかった自治体も多くありました。

面接試験は、人対人の試験であるため、一人では練習できません。面接の練習には面接官が必要ですし、論文も添削してくれる人、模擬授業・集団討論も相手が必要です。

そのため、練習をともにしてくれる友だちが必要です。教員採用試験を受けるにあたっては、二次試験対策と一緒に頑張れる友人・知り合いを見つけておくことも大切です。

また、個人面接も集団面接も発言した内容だけでなく、**第一印象**や所作、対応の仕方など人物全体像を評価されます。面接官は、各校種の校長、幹部指導主事、各界の人事に関わる方々です。

教員仲間として働ける人物かを評価する自己PRや志望動機、教職教養や教育時事などに関する内容を質問されます。

具体的な指導の在り方や場面对応に関する質問が増加しています。

知識ではなく、実践力を問うためです。

(1)「面接試験」

①誠実さと教職への情熱をハキハキと伝える

教室で子どもたちにしっかり指導できるか、職員室で協調して働けるかなど、具体的にイメージして評価します。表現力や対応力、誠実さや教職への情熱などをはきはきと応答できるよう練習しておきましょう。

人前で自分の考えをきちんと整理して時間内にわかりやすく相手に伝えることができるようになるためには相当の練習と慣れが必要です。

日頃から、ことばで相手に思いを伝える習慣をつけることが大切です。

②押さえておきたい基本的な態度やマナー

- ・部屋に入る前にコートやマフラーは外し、きちんとたたんで腕にかけるか、指定の場所に置きます
- ・順番が来たら右手の中指の関節くらいで軽く3回ドアをノックします
- ・ドアを開け、その場で「失礼いたします」と静かに挨拶します（「失礼します」ではない）
- ・部屋に入り椅子の横に立ち、すすめられてから着席します
- ・カバンは足下に置きます。机や椅子に置かないこと
- ・着席したら背筋を伸ばし顔をあげて**第一印象**を良くしましょう
- ・一度に二つの動作（ドアを開けながらお辞儀をしたり、座りながらあいさつしたり、等）をしてはいけません

③服装・髪型は、第一**第一印象**を大きく左右します

- ・第一**第一印象**は、その後の面接官の評価に大きく関係しているため、清潔感のある、教育者としてふさわしい、誠実さが感じられるものにしましょう
- ・男子のネクタイは柄の派手でない紺色がおすすです
- ・女子はシャツのボタンはすべてとめ、スカート丈はひざがかくれるくらいが上品です
- ・男女ともヘアカラーは厳禁です。前髪が目にかからないようにします
- ・ピアスは厳禁ですが、穴が開いているのもおかしいので早めに対応しておきましょう

④はっきりと明るい口調で話す

- ・語尾まではっきりと発言しましょう
- ・「たぶん」「と思います」といった表現は自信のなさや無責任さを感じます
- ・正解のない問いには「私は〇〇と考えます」とはっきり答えましょう

⑤所作で社会性も評価されます

- ・男子は軽くこぶしを握って両ひざの上に、女子は右手を下にして軽く両手を重ねます
- ・面接官に対して誠実に応答していることが分かるような視線のやり方を心がけましょう
- ・緊張してどうしても相手の目を見ることができない場合は、面接官のネクタイの結び目付近を見るようにして、極力視線を落とさないようにしましょう
- ・舌を出す、頭をかく、肩をすくめる、貧乏ゆすりなどの癖を出さないように注意しましょう
- ・全体としてけだるそうな印象を与えないようにしましょう
- ・あなたが自分の子どもをどのような先生にあずけたいかを考えれば、どのような態度がふさわしいかイメージができます

⑥感じの良い応答

- ・面接官の質問をよく聞いて答えましょう
- ・どのような問いかけにもまずは「はい」と答えてから話をはじめましょう
- ・あまり長く沈黙もよくありません。質問が理解できないときははっきりと伝えましょう
- ・聞き取りにくいとき、質問の主旨がわからないときは聞き直す方が誠実です。
- ・相手に伝わるように、思いやりを持って丁寧に最後まで話しましょう
- ・相手に伝わることを選びましょう。自分だけがわかっていることや専門用語、略した表現は相手に失礼です
- ・面接官や他の受験者の質問や話を途中で遮らず最後まで聞きましょう
- ・とくに集団面接やディスカッションのときは他の人の話を最後まで聞くこと、そして否定や批判、評価を下すような言い回しは避けましょう
- ・自分の発言に自信を持ちましょう
- ・ときには知らないことを問われることもあります。「わたくしは、存じ上げません」「勉強不足で知りませんでした」などと素直に表現しましょう
- ・信念や自分の考えは自信を持って大きな声で発言しましょう

⑦言葉遣いは日頃からの習慣をつける

正しい言葉遣いは使い慣れていなければ、急には上手いきません。

日頃からはじめあるコミュニケーションをとる癖をつけましょう。

また、俗に言う「バイト敬語」（「〇〇になります」「～でよろしかったでしょうか」など）を使わないことが大切です。

- ・自分のことは「わたし、わたくし」と言います。体育会系で使うような「自分」はNGです
- ・語尾まではっきりと話しましょう。語尾はもちろん「です」「ます」調です
- ・敬語（丁寧語・尊敬語・謙譲語）を正しく使いましょう

- ・「父（ちち）」「母（はは）」など身内は謙譲です

これらは、「個人面接」でも「集団面接」でも同様にできていなければならない常識なので日頃の習慣がものをいいます。丁寧に正しい日本語を話す大人との会話をしましょう。

(2)面接・集団面接等で必ず聞かれる内容と意図

①志望の動機、意欲や熱意

- ・教職を志した動機、教職への熱意を持っているか
- ・あこがれだけでなく、具体像があるか

②これまでの経験から学んだこと

- ・自分の経験から何かを学び、アピールできるものを持っているか
- ・「授業」「サークル」「ボランティア活動」「アルバイト」などの経験はこれからの教育活動にどう生かされるのか具体的に述べることができるか

③教育の話題に関する基本的な知識、理解

- ・質問の内容には、必ず学校教育に関するものがある。その知識を持っているか
- ・時事問題に精通しているか。（社会の常識を知っている教師）
- ・「児童生徒の問題行動等の調査」に係る数字を理解しているか（いじめ、不登校等の最新の数字が答えられるか）

④与えられた質問を理解する力とそれに対する応答能力、表現力

- ・質問の内容をよく理解しているか
- ・沈黙は10秒くらいまで

⑤質問に対して、自分の考えを導き出し、それを適切なことばで表現する力を持っているか

- ・物事に対する考え方
- ・教育活動を行うにあたって望ましい考え方をしているか
- ・バランス感覚のある人物か

(3)いつから、何を準備すべきか

①日頃の人物を知りたい

面接試験の対策として、まず心得ておかなければならないのは、試験対策を何日間か行えばうまくいくというものではない、ということです。面接官に面と向かえば、その場限りの態度はすぐにわかってしまいます。

そもそも面接官は、あれこれ質問することで、その場限りの態度ではないかということを見抜こうとしているのです。したがって、日頃からの様々な人々に対する振る舞い方を整えておく必要があります。

②文を読んでいるような話し方はNG

志望の動機や教育に関する質問への応答についても、直前に文章を丸暗記したのか、あるいはしっかりと自分のものになっているのかは、面接官が聞けばすぐにわかります。

自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝える力や、相手の意図していることを的確にとらえて答える力をつけておきましょう。

③年上の人と話をしたり、公的な場で自分の意見を述べる機会を積極的に活用する

日頃から丁寧に適切な接し方や発言が自然にできるようにしましょう。

- ・志望の動機について、学校生活や教育実習の体験と結びつけて教職への思いを述べるができるようにしておきましょう
- ・自分自身の大学生活が有意義であったとアピールできるように、1、2年生のうちに積極的にサークル活動やボランティア活動などに参加しましょう

④知識と情報を貯めておく

- ・学校教育に関する質問に関しては最近の教育政策や教育事情を知るために、文部科学省の重要な答申をよく読み、理解しておきましょう。これは、文部科学省のホームページにも掲載されています
- ・最近の教育問題について、新聞を読んで教育関係の記事をスクラップしたり教育に関する特集番組などもチェックしておきましょう
- ・生徒の指導の仕方について、自分だったら具体的場面でどのように対処するかをイメージしましょう。このとき、法律で禁止されていること（たとえば体罰）や、答申や通達のなかで適切だとされていることを知っておくと良いでしょう
- ・情報誌等で、自分が受験する都道府県や市の出題傾向を把握しておきましょう

(4)集団討論のコツ

とても重要な人物評価の方法ですが近年は感染予防対策のために実施されない自治体もあります。しかし、今後は復活することが考えられますので準備はしっかりしておきましょう。

- ・受験者5～8人に対し、面接官2～4人、時間は30～40分が一般的です
受験者全員が自己PRなどをした後、教育観や生徒指導場面などについての質問に対して順番に、あるいは挙手順で答えます
- ・「ディスカッション形式」や「ディベート形式」がありますが、受験者同士で一つのテーマについて討論するものです
- ・自治体ごとに傾向の違いはありますが、多くの県で課されるテーマは生徒指導に関するものが多く、教育時事から「少子化対策」「地方創生」「政治の動向」なども頻出します
- ・ここで評価することは「まわりの意見をしっかりと聞けるか」「自分の意見を適切なタイミングで挟み込むことができるか」といったコミュニケーション能力です
自分だけが長く話したり、他の受験者が発言しているときに別のことを考えていたり、自己中心的な対応をしていないかを評価します
- ・教師としての主体性、主導力、構成力（ロジカルシンキング）、協調性が適性として身につけているかが問われます。司会やまとめ役などは立候補して積極性をアピールするのも一つの方法です
- ・説得力のある話し方には「具体例」が盛り込まれています
単に「～だと思えます」ではなく「○○なので○○だと思えます」といった根拠の提示をしましょう

①公的な資料を集めておく

自治体や教育委員会が出している公的な資料は、その自治体の教育を知るのに非常に役立ちます。

- ・ 教員採用試験 説明会で使用した資料
- ・ ○○県教育振興基本計画
- ・ ○○県教育大綱
- ・ ○○県教員育成指標
- ・ ○○県 教育 振興
- ・ ○○県 教育 大綱
- ・ ○○県 教員 指標 など

(5)面接や討論で出題されたテーマ

- ・ 教員の志望理由は
- ・ この自治体の志望理由は
- ・ この自治体の教育の特徴は
- ・ 勤務地の希望は
- ・ 併願しているか
- ・ 不合格ならどうするか
- ・ 併願したところだけ受かったらどうするか
- ・ 長所、短所は
- ・ 長所はどう教育に活かすか
- ・ 短所はどう改善するか
- ・ 理想の教師像は
- ・ 理想に近づくために努力していることは
- ・ 理想の学級は
- ・ どうやって理想に近づけていくか
- ・ 教師に必要な資質は
- ・ 同僚とどう関わるか
- ・ 同僚と意見が異なったらどうするか
- ・ 教育実習で学んだことは
- ・ ボランティア経験から学んだことは
- ・ 部活・サークルで学んだことは
- ・ 英語教育についての考え
- ・ 英語教育で心がけたいことは
- ・ 英語が苦手な子にどう対応するか
- ・ ICT機器を活用することはあるか
- ・ ICT機器の活用で気をつけていることは
- ・ 情報化の中で子どもに付けたい力は
- ・ スマホを使う子どもが多いが、気をつけたいことは
- ・ スマホ使用のことで保護者に伝えたいことは

- ・ ネットでのいじめにどう対応するか
- ・ 働き方改革として、どのようなことができるか
- ・ 教員は多忙と言われるが、どのように働くか
- ・ いじめについての考えは
- ・ いじめの未然防止のためにできることは
- ・ もしいじめが起きたらどうするか
- ・ 「うちの子がいじめられている」と保護者から連絡があったらどうするか
- ・ 保護者は学校に何を求めているか
- ・ 保護者からのクレームにどう対応するか
- ・ 保護者から信頼される教師とは
- ・ 授業で大事にしていることは
- ・ 子どもの興味を引きつける工夫は
- ・ 授業中の子どもの学力差にどう対応するか
- ・ 「なぜ勉強するの」と子どもから聞かれたら
- ・ 言うことを聞かない子にどう指導をするか
- ・ 特別支援が必要な子にどう対応するか
- ・ ケンカがあったらどう対応するか

(5) 模擬授業（場面指導）

- ・ 模擬授業とは、教員採用試験の際に合否を決める判断基準のひとつです。

実際に教壇に立って生徒に魅力ある授業ができる先生かを判断します。

実際に普段授業で使用している教室を使って、面接官3～5人（自治体によって違う）に対して授業を行います。中には実際に生徒に対して授業をしている様子を面接官が評価するということもあります。

・ 面接官

指導主事、県の幹部職員、その教科を担当する教員、校長や副校長、一般の方（企業の人事担当など）が同席します。

・ 時間

短ければ3～5分程度、長い時で10～15分程度です。

模擬授業自体は長くありませんが、模擬授業の後に口頭試問面接があり、合計で30～45分程度になる場合もあります。

・ 課題・内容

多くは「教科指導」（栄養指導）ですが、「短学活」や「生徒指導」など、教科指導以外のものを課題として与えられる場合もあります（場面指導と言います）

(6) 模擬授業の評価項目

① 授業のプランニング力

- ・ どのように授業を行おうとしているかが整理されている
- ・ 説明、問いかけがバランス良く構成されている
- ・ 授業を見終わったときに本時のねらいが何であったか理解できるか

- ・授業を通して評価の視点が明確か
- ・教科指導の理論及び学習指導要領の動向の理解
- ・児童生徒に考えさせたり、表現させたりして児童生徒の学活動の様子が現れているか
- ・教師の一方的な説明になっていないか

②教科そのものの知識や技能の高さ、教材の理解の深さ

- ・教師が教科内容を十分理解していることや技能を持っていることが感じ取れるか
- ・児童生徒に理解させるための何通りかの提示の仕方を持っているか

③授業のパフォーマンス力

- ・テンポ良くメリハリのある授業か
- ・児童生徒との関わりが見えているか
- ・児童生徒が理解できる板書ができていないか
- ・児童生徒のかかわりで、承認、賞賛、激励、助言が適切にできているか

(7)「見せる授業」を意識する

教師が一人で話し続ける授業は生徒であった自分も退屈だったはずですが。

あたかも、そこに30人の生徒がいるように、やりとりをしながら明るく、はつらつとした教師として授業をしましょう。

①授業に対する責任感と誠実さを大切にす

- ・生徒にワクワク感を与える、もっと学びたいと思わせるような授業にする
- ・各自治体のスタンダードに沿った授業

各県、自治体が推進する教育政策に基づいた授業のポイントや授業方法があります。

※前出 たとえば「新学力向上のための三つの提案」(長崎)

「授業改善の4+4のチェックポイント」(宮崎)

「鍛ほめ福岡メソッド」(福岡)「新大分スタンダード」(大分)等

その内容や具体例を加味した授業になっているかが評価されます。各自治体によって、授業のすすめ方や板書のルールなどに特徴がありますから早目に慣れておくことが大切です。

②導入がものをいう

何といっても「導入」です。もちろん、教壇に立った瞬間が導入です。

- ・姿勢、顔、しぐさ、目線、声…これらですでに採点は始まっています
- 堂々と、教室全体にはっきり伝わる声で挨拶をし、注目を集めましょう。

③構成

15分と長い模擬授業ではもちろん、3～5分の短いものでも、「起→承→結」の流れができていないかを評価されます。

「わかりやすかった」と言われる組み立てをします。

④声量

声は大声ではなく、「通る声」です。

大学の授業ではないのでマイク也没有せん。

生徒たちが少しザワザワしていても響きわたる程度の声量で授業を進めましょう。

⑤生徒とのキャッチボール

アクティブラーニングの本当の意味を知っていますか？（話し合い学習ではありません）

生徒たちの「主体性・対話的で深い学び」が求められています。

面接官は、教員が生徒の主体性を引き出しているかもよく見えています。

生徒が安心して自分の考えを発言できる場を作ることが大切です。

⑥板書のわかりやすさ

・自治体のスタイルを確認しましょう

・一文字の大きさはこぶし程度

・美しく上手な字はポイントが高いですが、大切なのは「丁寧さ」

（例）歴史の授業であれば、時系列に沿って黒板の左から右に、重要な出来事や関わった人物などを記載すると良いでしょう。目立たせたいポイントは色を使ったり、枠で囲ったりする工夫も必要です。

(8)授業後の口頭試問

授業後に面接官から実際に質問された例です。

- ・なぜ、あの問いかけをしたのですか
- ・授業はうまくできましたか
- ・どこを工夫したかったですか
- ・チョークの持ち方を知っていますか
- ・一番伝えたかったことを10文字で言ってください
- ・この次の授業展開は？
- ・導入で使ったニュースはいつのものですか？
- ・口ぐせ（えーっ…など）に気づきましたか
- ・字のくせを直すとしたらどこですか
- ・一番気を配った生徒は？

(9)模擬授業対策で大切なこと

①自己流や学生同士では通用しない

授業評価の専門家の指導を受けて（指導主事経験者）改善をしていくことが大前提です。模擬授業の練習は専門の指導者が同席するチャンスを必ずつくり、評価していただくことが大切です。

②45分、50分授業ではない

- ・試験のためのプレゼンテーションであることを意識しましょう
- ・次の展開を見越した構成にします（後の口頭試問に備えるため）
- ・とにかく、声を出して実際にしゃべって練習することが大切です

- ・口ぐせや文字ぐせは自分ではわからないもの。友だちに指摘してもらおうと良いでしょう
- ・チョークの持ち方、色の使い方、図の書き方は実際に黒板を使って練習をしましょう
- ・自分の動画を撮影して本当にわかる授業が復習してみるのも良いでしょう

IV 「公立学校」と「私立学校」の違い

教師として仕事をしたいということが自分の進路選択であるならば、公立学校に限らず、私立学校に勤務することも考えられます。

大きな違いは、公立学校には定期的に人事異動があり、教員人生の中では大規模校、小規模校、採用自治体管内の東西南北様々な学校で勤務することができます。

人間関係も広くなり多くの教育実践が経験できます。

また、年間に多くの研修会や研究会があり常に最新の教育課題をもとにスキルを磨く機会があります。また他校や他県、そして様々な先生方との交流が多いため人間関係の広がりも期待できます。

一方私立学校には、系列の学校以外には人事異動はありません。

教員としての生活を一つの学校で過ごすこととなります。

公立学校は定期的に人事異動がありますから、たとえば部活動の指導を継続的にすることはできませんが私立学校は指導者が継続的に生徒を育てられるため、長期的に実績を残すこともできます。また、独自の教育方針で教育活動ができます。

採用方法も大きく違います。

私立学校の場合は一般企業の採用と同じように各校が「教科」「科目」を指定して独自に募集するところがほとんどです。

そのときに必要なのが「履歴書などのエントリーシート」「大学からの推薦状」「小論文(作文)」です。これは、面接などの二次試験の参考にするため、面接重視であることも意識しておきましょう。

また、私立学校では「私学教員適性検査」を受け、その結果を使いながら各学校を受験するのが一般的です。これは私立学校教員のためのセンター試験のようなもので、教職教養と専門教養についてA～Dの評価がつき、評価が高いほど採用される率が高くなります。詳しくは各県の※「私学協会」に問い合わせて情報を得ましょう。

まとめ

あなたが出会った「こんな先生になりたい」という素晴らしい先生のように、いつか皆さんが子どもたちにとって「先生みたいな先生になりたい!」という教師になってくれることを願ってやみません。

Ask, and it will be given to you.